

## 商品市況展望

平成 25 年 6 月 23 日記

最近はとんとテレビを見なくなった。毎日毎日、同じような顔のコメンテーターやら芸能人やらが出て騒がしいし、ニュースもネットでチェックすれば十分だからだ。ドラマは元々全然見ないし、若くなくなったせいか歌番組にも全く興味がわからない。

唯一見るのはスカパーのラグビー中継だけで、今日もこれから行われる日本代表 Vs 米国代表の試合が楽しみだ。昨日もオーストラリア代表 Vs ライオンズ（英 4 カ国の合同代表）の試合を見ていた。

そうは言っても、テレビを全く見ないわけじゃない。昨日はたまたま日テレの「世界一受けたい授業」というのを見た。たまたま付けたらやっていたという話で、毎週見ているわけではないが。

その中で、「偉人たちの給料は幾ら？」というのをやっており、現在の安倍首相の給料は 4000 万円に届かぬらしいが、初代首相の伊藤博文は 2 億円弱、大久保利通は 1 億 7000 万円くらいとか言っていた。

幕末の志士である新選組の給料は、新選組局長・近藤勇で約 600 万円、副長・土方歳三で 480 万円、沖田総司 360 万円、平の隊士が 120 万円とか、いやはや危険の割には少ないもんだという感想。

興味深かったのが、伊能忠敬が日本地図を作ったのに掛かった金額が 10 億円との事で、この 10 億円のうち 8 億円は伊能忠敬自身が自費で出し、残りの 2 億円を幕府が出したという話。伊能は商人で、酒造業・貸金業を営み、50 億円くらいの資産を持っていたというのだから、驚き。当方はてっきり、伊能忠敬は幕府の役人か何かなのだと思っていた。元々、千葉の商人だったとは、この日まで知らなんだ。

この番組を見た後、興味が出て「伊能忠敬の生涯」をいろいろ調べたが、まあ立派な人だな。人生はかくあるべきだし、お金持ちというのはこういう事に資金を使ってこそ、文化は発展してゆくのだろうと思う。

士農工商という身分があった封建制度の江戸時代であるが、伊能の生涯を考えると、結構ダイナミズムに溢れていた時代だったのかもしれない。やはり日本という国は、良い国だ。

## 〔貴金属〕

○東京金日足  
…削除済み…

今週の金の値動き

	6月限(当限)	前日比	4月限(先限)	前日比
6月17日	¥4,245	5	¥4,245	3
6月18日	¥4,208	-37	¥4,214	-31
6月19日	¥4,186	-22	¥4,186	-28
6月20日	¥4,197	11	¥4,212	26
6月21日	¥4,074	-123	¥4,087	-125

金相場は、先週号においては『現状での下値目標は4,100円であろう。戻してもまた売られる可能性も高く、また円安トレンドが始まらなければ、上値は重いと判断せざるを得ないだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、週末に急落。安値では一気に3,975円(6/21)と4,000円割れも記録であり、4月の暴落時の安値も大幅に割り込む下げとなった。

元々、金相場の情勢は“戻り売り相場”としていたわけであり、先週号でも…

『現状での相対力指数は30ポイントまで低下であり、4,200円近辺で底固めする可能性はある。しかし買うには、やはり明確な底入れを確認する必要がある、単なる値頃感ではリスクが大きすぎる。一方でチャート判断からの下落目標は、戻り天井4,760円～ネックライン4,430円の幅330円の倍返しなら、ズバリ4,100円ジャスト。更に大きな下落を想定するなら、前回の底値4,132円→4,760円までの628円上げの倍返しの下げで、ズバリ3,504円』とコメントしていた。

ただし今回一気に下げたのは、

- 元々、下げトレンドを形成している中で、4/16に記録した4,132円を割り込んで下げが加速。
- 今週は円安が来ていたが、それ以上にNY金が下落したことで上がらず、円安でも上がらないのであれば、ではどうなれば上がる？と失望売りが出た。  
などが挙げられるだろう。

また先週号では、このようなコメントもした。

『個人投資家の多くは、推定で4,600円辺りが平均買い値と思われるが、「金は急落しても、耐えていれば戻るのだ!」という意識が高いようで、投げが出た様相がない。これは悪質だ』

週末の9時時点は4,000円を割り込む価格での寄り付きであり、さすがにやっと投げも出たようだ。15時半の引けまでには、100円ほどは安値から戻したのがその証拠だが、底入れ確認となるかどうかは、4/16の後のように2～3日の推移を見ないと判らないだろう。

その後の夜間取引では4,050円～4,096円での動きであるが、週末の日足のヒゲの中での推移である。陽線が立って切り上がってゆくチャートが出ないと、底入れ確認は出来ない。

だが長い目で見れば、4,000円割れの価格は買い場であろうと思う。4,600円辺りからすでに600円以上上げたわけで、ここから更に一気に600円も下がることはないだろう。ただし現状では、4,400円辺りが上値抵抗線として働くだろう。

なお一代の動きは以下のとおり。

#### 東京金一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年6月	¥4,023	6月27日	¥5,068	2月7日	¥3,940	7月24日	¥4,074
2013年8月	¥4,224	8月29日	¥5,873	2月7日	¥3,973	6月21日	¥4,083
2013年10月	¥4,404	10月29日	¥5,077	2月7日	¥3,974	6月21日	¥4,082
2013年12月	¥4,519	12月25日	¥5,081	2月7日	¥3,974	6月21日	¥4,084
2014年2月	¥4,759	2月26日	¥4,979	3月21日	¥3,976	6月21日	¥4,088
2014年4月	¥4,585	4月25日	¥4,760	5月10日	¥3,975	6月21日	¥4,087

○NY 金日足

…削除済み…

6/21のNY市場では、前日比5.8ドル高の1292.0ドルでの終了。高値1301.7ドル、安値1268.7ドルの動きであり、上下幅33ドルの動き。

…中略…

元々、NY金に関しては『下手すれば安値は1200ドル割れ』とずっとコメントして来ているわけであるし、そこまで下げても驚きはしない。ただしそこまで下がるのなら円安であるはずで、 $1180 \text{ドル} \times 100 \text{円} \div 31.1035 = 3,793 \text{円}$ となる。その辺りが理論上の底値か。

なおCFTC発表の6/18現在のファンドのポジションは、…中略…

6/21現在でのETF残高は、…中略…

結論として当方の相場観は、4,000円割れは長い目で見れば底値圏ではあろう。ただし週末の下落で完全に底打ちしたかどうかは、まだ不明であろう。戻りは売られて、2番底を付けるとは見ている。

○東京プラチナ日足

…削除済み…

今週のプラチナの値動き

	6月限(当限)	前日比	4月限(先限)	前日比
6月17日	¥4,457	-10	¥4,475	-15
6月18日	¥4,392	-65	¥4,398	-77
6月19日	¥4,411	19	¥4,420	22
6月20日	¥4,430	19	¥4,456	36
6月21日	¥4,325	-105	¥4,349	-107

プラチナ相場は、先週号においては『相場は一気に底抜けの展開になってしまっている。来週前半に底入れしなければ、今後は悪質な戻り売り相場になるだろう。来週の中盤は山場であろう』とコメントした。

今週の相場展開は、週末には暴落で一時 **4,189円(6/21)まで記録**。4,600円を割り込んで急落した相場が、一気にまた400円以上の暴落となったわけだ。

しかし9時時点の暴落からはさすがに戻し、引けは4,300円台半ばまで160円の切り返し。

さて結論から先に言えば、**4,189円は底か、もしくは底でなくても底値圏ではあろう**。もうすでに戻り高値からでも800円下げているわけであるが、少なくともここから800円下げる相場ではないはずだ。

ただし前回の下値支持線だった4,600円は、今度は上値抵抗線としてしばらくは働くはずであり、戻ったところは叩かれて2番底はあると考えるのが無難だろう。

…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京プラチナー代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年6月	¥3,681	6月27日	¥5,267	2月7日	¥3,460	7月24日	¥4,325
2013年8月	¥3,860	8月29日	¥5,274	2月7日	¥3,807	8月31日	¥4,330
2013年10月	¥3,998	10月29日	¥5,288	2月8日	¥3,933	10月30日	¥4,335
2013年12月	¥4,249	12月25日	¥5,300	2月8日	<b>¥4,174</b>	<b>6月21日</b>	¥4,345
2014年2月	¥4,831	2月26日	¥5,052	3月12日	<b>¥4,187</b>	<b>6月21日</b>	¥4,345
2014年4月	¥4,622	4月25日	¥4,999	5月16日	<b>¥4,189</b>	<b>6月21日</b>	¥4,349

○プラチナー金価格差日足

…削除済み…

週末現在のサヤは、4,349円(プラチナ) - 4,087円(金) = **262円**。6/10の426円をピークに、184円(6/18)まで詰まったが、200円辺りが分岐点だろう。

現状では184円は底と考えているが、割れたら逆パターンになるので注意だ。

結論として当方の相場観は、週末の暴落でアク抜けしたか。もっとも戻りは売られて2番底は付けるだろうから、チャートに従っての戦略が重要だろう。

## 〔穀物〕

○東京コーン日足

…削除済み…

今週のコーンの値動き

	9月限(当限)	前日比	7月限(先限)	前日比
6月17日	¥31,110	-280	¥26,570	
6月18日	¥31,680	570	¥26,900	330
6月19日	¥31,690	10	¥27,270	370
6月20日	¥32,400	710	¥28,210	940
6月21日	¥31,900	-500	¥28,050	-160

まずはコーンから…

先週号においては『ここから更に暴落するほどの相場であるとは思えないが、買い材料もまた皆無である。戻り売りでお茶を濁し、秋の買い場を待つのが良いだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、7月限発会後から戻りに入った相場が、週末には **28,410 円まで 2,000 円強の戻し**。

貴金属が暴落する中で、**2,500 円下げて 2,000 円戻したのがコーン相場**である。米中西部の **ホット&ドライの予報**が、昨年の再来を危惧させて急速に戻したわけである。

今まではコールド&ウェットで危惧されていたものが、一気に反対の材料で買われる辺りが、天候相場期の面白さというか、いい加減なところでもあろう。今までの天候で土壌水分はたっぷりとあるはずで、それでもこれが買い材料になる不思議さよ。下値もそんなにまだ期待出来ない時期なので、吊り上げてから叩きたいのだろう。

…中略…

なお一代の動きは以下のとおりである。

東京コーン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年9月	¥28,500	8月16日	¥33,570	6月3日	¥25,510	10月1日	¥31,900
2013年11月	¥25,600	10月16日	¥28,910	5月30日	¥24,420	11月14日	¥27,540
2014年1月	¥25,700	12月17日	¥28,600	6月3日	¥24,930	12月21日	¥27,280
2014年3月	¥27,290	2月18日	¥28,750	6月3日	¥25,690	4月4日	¥27,670
2014年5月	¥26,550	4月16日	¥28,970	6月3日	¥26,200	6月13日	¥27,950
2014年7月	<b>¥26,600</b>	<b>6月17日</b>	<b>¥28,410</b>	<b>6月21日</b>	<b>¥26,300</b>	<b>6月17日</b>	¥28,050

○シカゴコーン日足

…削除済み…

週末 6/21 のシカゴ市場は、7月限で前日比 11.50 セント安の 661.75 セント。12月限では 4.25 セント安の 556.25 セント。

このチャートは期近引き継ぎ足なので、現在は7月限を示している。これで見ると、多少弱いチャートながら、620 セントは底値と見えるはず。だが7月限が納会すれば9月限がチャートに

載り、それは現在 590 セント台だ。また次が新穀の 12 月限であり、それは 550 セント台であるわけだ。

つまりは、今春の 7 ドル台での推移の相場が限月切り替えで 6.5 ドル台に入り、先々はそれが 6 ドル台、5.5 ドル台へと切り下がって行くわけだ。

先週号でもコメントしたが、本命は旧穀が終わって今年の新穀が安値を付け、来年のものが安く生まれた時に買い狙いたいという事である。

**なお CFTC 発表の 6/18 現在のファンドのポジションは、…中略…**

結論として当方の相場観は、今週大きく戻した相場であるが、この戻りは一過性のものであろう。これは戻り売りの好機と捉えており、売り中心の逆張りの継続がベターであろう。

○東京大豆日足

…削除済み…

今週の大豆の値動き

	8月限(当限)	前日比	6月限(先限)	前日比
6月17日	¥63,700	-500	¥52,100	
6月18日	¥63,700	0	¥52,500	400
6月19日	¥64,200	500	¥52,500	0
6月20日	¥64,200	0	¥62,910	410
6月21日	¥64,000	-200	¥52,300	-610

続いて一般大豆です…

先週号においては『ファンダメンタルズはコーンよりも若干強いと思われるが、だからといって買いを推奨する状況ではないだろう。大崩れはないと思うものの、戻り売り中心での対処がベターと考える』とコメントした。

今週の相場展開は、6月限発会が51,700円台でスタートした後、週末には53,300円まで戻したが、その後は他商品の急落もあって大幅に値を消した。

ファンダメンタルズは、例えば在庫率予測は昨年の4.1%→8.1%へと増えるが、コーンの6.9%→15.2%への増加よりは遥かにマシであり、そういう意味ではまだ大豆の方が買い目があると判断している。だが今週は逆にコーンは大きく戻したが、大豆はほとんど戻せなかった情勢である。

…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京一般大豆一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年8月	¥48,020	8月16日	¥64,900	5月16日	¥47,500	11月13日	¥64,000
2013年10月	¥47,220	10月16日	¥67,810	5月29日	¥46,920	10月16日	¥66,300
2013年12月	¥50,680	12月17日	¥57,100	6月4日	¥48,450	1月9日	¥55,580
2014年2月	¥53,000	2月18日	¥55,010	6月3日	¥50,150	4月4日	¥52,380
2014年4月	¥50,910	4月16日	¥55,380	6月3日	¥49,850	5月2日	¥52,450
2014年6月	<b>¥51,760</b>	<b>6月17日</b>	<b>¥53,300</b>	<b>6月21日</b>	<b>¥51,730</b>	<b>6月17日</b>	¥52,300

旧穀は8月限、10月限の2本だ。全く違う商品と考えた方が無難なので、割高とか割安とかは無いらろう。

○シカゴ大豆日足

…削除済み…

週末6/21のシカゴ市場では、7月限で前日比4.25セント安の1493.25セント。11月限では11.50セント安の1273.50セント。…中略…

なおCFTC発表の6/18現在のファンドのポジションは、…中略…

結論として当方の相場観は、大きな相場の出現は無いらろう。逆張りながら、戻り売り中心での仕掛けで、小幅利食いに徹するのがベターであろう。

## [ゴム]

○東京ゴム日足

…削除済み…

### 今週のゴムの値動き

	6月限(当限)	前日比	11月限(先限)	前日比
6月17日	234.7	4.5	238.9	3.6
6月18日	230.0	-4.7	236.5	-2.4
6月19日	229.9	-0.1	237.3	0.8
6月20日	229.0	-0.9	238.0	0.7
6月21日	232.0	3.0	236.3	-1.7

先週号においては『底打ちしたかどうかは不明。一応220円辺りまで下げれば反発もあると見ているが、20円も戻せば戻り売りを浴びる展開となるだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、週末には**228.0円まで下落**。貴金属の暴落などの影響で一気に230円割れの新安値更新となったが、その後の他商品や株式市場の戻りを見て、236円台までは戻した。

4月の底値である242.6円から、すでに15円近く下げたわけである。だがまだ、底打ちを確認したような気配は無い。

聞くところによれば、一般投機家の買い越しはまだかなりの量に上るとされており、投げが出切ったとは到底思えない情勢だ。…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

### 東京ゴム一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年6月	286.0	12月21日	334.1	2月4日	222.0	6月21日	232.0
2013年7月	316.3	1月28日	337.8	2月6日	222.2	6月21日	232.8
2013年8月	301.0	2月25日	302.1	2月25日	223.2	6月21日	232.8
2013年9月	279.5	3月26日	297.7	5月13日	225.8	6月21日	233.1
2013年10月	253.7	4月24日	299.0	5月13日	226.3	6月21日	234.5
2013年11月	267.7	5月28日	274.8	5月29日	228.0	6月21日	236.3

全限、一代安値の更新中である。

当先のサヤは、6月限232.0円～11月限236.3円と**4.3円の順ザヤ**。順ザヤ幅は縮小だが、サヤの縮小はそれだけ買い人気は後退している証だろう。

**週末現在の輸入採算価格は、…中略…**

**国内営業倉庫在庫は、6/10現在で1,053トン減の13,209トン**。4旬連続の減少である。

**上海ゴム在庫は、…中略…**

**上海ゴム価格は、17,000元ジャストの安値まで記録**。底抜けしているのは東京と同じ。



タイは価格維持のため、先物市場での買いを示唆しているらしいが、情報通は中国のシャドウバンキング問題で、買い方の崩壊はこれから起きるのだと指摘している。大手買い方は不動産屋だったわけで、そういう事もさもありなん。

結論として当方の相場観は、戻り売り相場の継続だろう。242 円をストップロスに、200 円割れを目指す相場であろう。

## 〔原油・石油製品〕

○NY 原油日足

…削除済み…

まずは原油から…

先週においては『戻り売り相場であろう。特に NY 原油は週末まで急騰していたが、これで天井と打ったのではないかとの観測。東京市場は為替の影響が大きく、判断は付けづらい面が大きい、下げトレンドはまだ続くとの判断である』とコメントした。

今週の相場展開は、NY 原油は 99.01 ドル (6/19) まで上昇。年初来高値を大きく更新し、その後は急落して 95 ドル台まで下落。週末 6/21 は、前日比 1.45 ドル安の 93.69 ドルでの終了であり、安値は 93.12 ドルまで記録した。

先週号では「1 文新値の 98.25 ドルで天井」と考えていた。それが週明けの夜間取引から高値を更新し、東京市場で売りポジションを作った当方は、円安もあった事ですぐに踏んでしまった。

…中略…

さて結果的にはタイミングのずれた相場であるが、99 ドル台から反落したことで、まだ上に抜けるような相場ではなかったと実証されただろう。91~92 ドルが下値支持線であり、割れば安値圏の 85 ドル台も出るだろう。

結局のところ、もみ合い継続の相場が続くだろうと見る。

なお 6/21 現在のロンドンブレントは 100 ドル台、ドバイ原油は 98 ドル台である。NY 原油同様に、高値から 6 ドルほどの下落となっている。

また 6/18 現在のファンドのポジションは、…中略…

○東京原油日足

…削除済み…

今週の東京原油の動き

	6 月限(当限)	前日比	11 月限(先限)	前日比
6 月 17 日	¥61,550	330	¥60,300	610
6 月 18 日	¥61,620	70	¥60,160	-140
6 月 19 日	¥61,790	170	¥60,650	490
6 月 20 日	¥61,920	130	¥61,120	470
6 月 21 日	¥51,640	-280	¥60,390	-730

東京原油は 61,870 円 (6/20) まで上昇し、それから週末に急落した。もっとも週末は 9 時時点が安値であり、そこからは下ヒゲで大きく戻る格好であるが。

その後の夜間取引では、NY 原油の下落を受けて 58,620 円の安値も記録し、59,000 円辺りでの終了である。結局、今週の戻りはダマシになった可能性が高く、58,040 円 (6/14) は本当に底なのかどうかの確認を取るという事になりそうだ。

…中略…

62,000 円を売り、58,000 円を買いというのが、順当な作戦だろう。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京原油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年6月	¥58,080	1月4日	¥66,690	2月13日	¥57,320	1月8日	¥61,640
2013年7月	¥62,910	2月1日	¥66,460	2月13日	¥57,780	4月18日	¥61,230
2013年8月	¥60,560	3月1日	¥65,240	5月21日	¥57,360	4月16日	¥61,040
2013年9月	¥62,370	4月1日	¥65,100	5月21日	¥57,370	4月18日	¥60,840
2013年10月	¥59,500	5月1日	¥65,000	5月20日	¥57,510	5月2日	¥60,580
2013年12月	¥60,370	6月3日	¥62,050	6月5日	¥58,040	6月14日	¥60,390

結論として当方の相場観は、基本的に原油価格は100ドルを突破するような急騰もなければ、80ドル以下になるような暴落もないのであろう。かつてに比べれば高値保合いの相場と判断することが出来るわけで、やはり吹き値売り、突っ込み買いを基本に相場を組み立ててゆく事が肝要だろう。それは国内相場も同様だろう。

○東京ガソリン日足

…削除済み…

### 今週のガソリンの値動き

	7月限(当限)	前日比	12月限(先限)	前日比
6月17日	¥74,790	750	¥71,510	520
6月18日	¥74,460	-330	¥71,160	-350
6月19日	¥74,910	450	¥71,870	710
6月20日	¥74,580	-330	¥72,630	760
6月21日	¥73,940	-540	¥71,850	-780

続いてガソリンです…

先週号においては『戻り売り継続の相場であろう。目標値は、68,030 円に接近するか、割り込むかというところに設定するのが良いのでは?』とコメントした。

今週の相場展開は、先週末に記録した **69,450 円 (6/14)** からは原油高&円安で切り返し、週末には **73,230 円** まで上昇。

しかし貴金属相場の急落の影響で、このガソリン相場も大きく売られ、安値では **70,820 円と 2,400 円の暴落**。その後は 1,000 円戻したが、夜間取引ではまた大きく下落している。

チャートでは 2 月までの急騰相場、その後の下落から一目均衡表の雲の下に抜けた春相場、そしてみ合いに変化している現在の相場へと、3 つのパターンに大別される姿だ。

現在は雲の下での推移が続いており、横ばいながらも強くはない相場という事ができるだろう。どちらかと言えば、高いところを売りから入った方がベターと思える。それが現在の情勢だ。

なお一代の推移は、以下のとおり。

### 東京ガソリン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 7 月	¥69,810	12 月 26 日	¥82,280	2 月 13 日	¥69,600	4 月 16 日	¥73,940
2013 年 8 月	¥76,550	1 月 28 日	¥82,250	2 月 13 日	¥69,600	4 月 16 日	¥74,050
2013 年 9 月	¥78,930	2 月 26 日	¥79,590	3 月 12 日	¥69,050	4 月 18 日	¥73,080
2013 年 10 月	¥74,630	3 月 26 日	¥76,710	4 月 1 日	¥68,150	4 月 18 日	¥72,540
2013 年 11 月	¥72,990	4 月 26 日	¥75,590	5 月 20 日	¥68,030	5 月 2 日	¥72,230
2013 年 12 月	¥71,760	5 月 27 日	¥74,300	5 月 29 日	¥69,450	6 月 14 日	¥71,850

6/21 現在の業者間転売価格は、…中略…

6/15 現在のガソリン在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、突っ込み買いの吹き値売りでの逆張り相場が続くだろう。ただしトレンドから判断すると、高いところを売る方に分があるとの判断である。

○東京灯油日足

…削除済み…

今週の灯油の値動き

	7月限(当限)	前日比	12月限(先限)	前日比
6月17日	¥72,700	420	¥73,980	500
6月18日	¥72,530	-170	¥73,790	-190
6月19日	¥73,270	740	¥74,590	800
6月20日	¥73,750	480	¥75,410	820
6月21日	¥72,330	-1420	¥74,490	-920

最後に灯油です…

先週号においては『まだ逆張りの展開が続くだろう。いずれ出てくる1月限の安いところを買いたいので、それまでは下げ賛成の相場である』とコメントした。

今週の相場展開は、先週末に71,590円(6/14)の安値まで記録した後に反騰相場に入り、週末には高値で76,090円と4,500円の上昇。

しかしここからは金の暴落などの影響で値を消し、一時73,470円まで2,500円の下落。その後1,000円戻し、夜間取引では73,000円割れまで一転して急落など、荒い展開となっている。

相場は3月以降、69,000円~77,000円台での推移であり、一目均衡表の雲を挟んでの上下は方向感がない場面。

もうすぐ1月限が発会するわけだが、これが7万円以下なら買っておきたいと考えているが、果たしてそこまで下がるかどうかはまだ不明だ。自信がなければ張らなくて済むのが個人投資家ゆえに、チャンスを待つのがベターであろう。

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京灯油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年7月	¥68,440	12月26日	¥81,700	2月12日	¥67,320	4月18日	¥72,330
2013年8月	¥74,200	1月28日	¥82,030	2月12日	¥67,720	4月18日	¥72,790
2013年9月	¥76,550	2月26日	¥76,980	2月26日	¥68,340	4月18日	¥72,940
2013年10月	¥74,090	3月26日	¥77,270	4月11日	¥69,000	4月18日	¥73,390
2013年11月	¥75,350	4月26日	¥77,820	5月20日	¥69,850	5月2日	¥74,000
2013年12月	¥74,610	5月27日	¥77,240	5月29日	¥71,580	6月14日	¥74,490

6/21 現在の業者間転売価格は、…中略…

6/15 現在の灯油在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、まだ逆張りの展開が続くであろう。買いたいのは1月限が7万円以下の価格になった時だが、もしもそれが出ている時には、きっと市場は売り一色のムードになっている事だろう。

## [為替]

### ○ドル/円相場日足

…削除済み…

103.73 円 (5/22) →93.79 円 (6/13) まで 10 円ほど円高となった後、週末までは 5 本連続の陽線立ちで 97 円台へと戻してきた。

10 円押しの半値戻しにはまだ達していないが、ちょうど一目均衡表の雲の下限に到達である。今後、このまま雲の中に突入～上に抜けるのか？ それとも跳ね返されて倍返しの 90 円前後までの円高があるのか？ それが今の焦点だ。

なお来週の主な予定は、

…中略…

などである。米景気指標に、為替相場が反応するかもしれない。

### ○ユーロ/円相場日足

…削除済み…

ユーロ/円相場も 5 本連続の陽線で、再び円安となっている。ドル/円よりは円高時の調整幅が少なかったわけであり、このひと月の相場はそれだけユーロは弱くなかったという事だ。

…中略…

### ○ユーロ/ドル相場日足

…削除済み…

ユーロ/ドル相場は、6/19 以降にいきなりドル高/ユーロ安になったわけだ。金の急落の原因は、この辺りにもあるのだろう。

商品相場を手がける人はドル/円相場の動向だけではなく、必ずユーロ/ドル相場を毎朝チェックしないとイケない。

---

このレポートは、私が個人的な判断で書いたものです。

内容の責任はすべて私に帰するものですが、取引に対する利益を保証するものではありません。

(当たり前ですが念のため)

ひげの中ちゃん相場情報

中田幸一郎

メールアドレス [info@higenaka.com](mailto:info@higenaka.com)